

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 861 号 平成 27 年 1 月 9 日

## 桃太郎（2）

産経新聞での義家氏の主張と朝日新聞での池澤氏の主張を読んでいると、考えておかなければならない問題が幾つかあります。

まず、1 点目の問題は、「伝統的な日本人」とは何を指しているのだろうかという事です。

義家氏は「伝統的な日本人なら誰もが唖然とする」と述べ、また、池澤氏も「伝統的な日本人なら誰もが唖然とするという、そのところが言いたかった」と述べているのですが、両者には、「伝統的な日本人」について何等か共通認識があるという事なのではないでしょうか。そういう疑問を持つのは、私には「伝統的な日本人」という定義がいささか判然としないからです。一体日本の中には、「伝統的な日本人」と「伝統的でない日本人」が存在するという事なのではないでしょうか。

趣味も違えば、興味関心も違う。思想信条も価値観も違う、そうした多様な人々が寄り集まって日本の社会は出来上がっています。

茶道や華道等の伝統文化や古典芸能に興味関心を持つ人がいる一方で、ジャズやロックに酔いしれる人もいます。勿論、その両方を楽しんでいる人も沢山います。また、「靖国に参拝すべき」と主張する人もいれば、「靖国反対」を叫ぶ人もいます。日本という国は、そうした多様性を包含した、成熟した社会を構成しているのです。

もし皆さんが、「あの人は正統な日本人だ」とか「あの人は出自がはっきりしないから正当な日本人ではない」等といった発言を聞いたら、何とされるのでしょうか？ 誰しも、時代錯誤も甚だしい、とんでもない発言だと思うはずで。

国民を何がしかの色に分けてレッテルを貼る、「伝統的な日本人」という言葉にはそうした危険性を内包しているように、私には感じられてなりません。

2 点目の問題は、「桃太郎」は、果たして日本人の心性を代表するものといえるのだろうか、という事です。

「桃太郎」という昔話は、大人なら多分知らない人はいないと思われる位良く知られていますので、それが日本人の心性に何がしかの影響を与えたであろう事は否定しませんが、だからといって、「桃太郎」が日本人の心性を代表するといえるものなのではないでしょうか。

池澤氏は、「狩猟民の心」の中で、アイヌの人々の民話を丁寧に読んだ結果、自分達の普段のものの考え方とはまるで違った不思議にやさしい世界を感じたと述べると共に、そうしたアイヌの人々の心性を代表するものとして「みなし子を育てた人

喰いの話」や「キツネのチャランケ」という物語を引き合いに出しています。そして、返す刀で、農耕によって富を得て、アイヌよりもずっと豊かな暮らしをしてきた日本民族の典型的な話は何だろうかと問い、それが「桃太郎」だというわけです。

池澤氏は、「桃太郎」は一方向的な征伐の話だ。この話には、侵略戦争の思想以外のものは何もない、と述べています。確かに、「桃太郎」は、明治期から太平洋戦争中にかけて帝国主義の英雄、軍国少年の理想像のように描かれた時期がありますので、池澤氏のように「桃太郎」を侵略戦争の象徴として批判する人が出て来るのは致し方ない面もあると思います。

ただ、そうはいつでも、新・講談社の絵本「桃太郎」の中で、日本民話の会会員の武士田 忠氏が「最近では『何もしていない鬼をいきなり攻めるのは可哀想だ。』などという人道的(?)な意見を聞く事があるがこれは大きな誤解である。鬼とは邪悪なるもの、人に災いをもたらすものの象徴」であり、「何もしていないように見えるが、鬼というだけで、すでに退治されるべき悪しき存在なのだ。」と述べているように、百鬼夜行していた時代に口承文芸として庶民の中に伝えられて来た「桃太郎」という昔話を今の価値観をもって評価し、「侵略戦争」の象徴としてしまう事については、私は疑問を感じています。

「桃太郎」が日本民族の典型的な話だと池澤氏はいいますが、日本には、「桃太郎」以外にも沢山の昔話が伝承されています。「こぶとり爺さん」「金太郎」「花さか爺さん」「一寸法師」「舌切り雀」等は皆さんも良くご存じではないでしょうか。

昨年(2019年)の10月30日、文部科学省所管の統計数理研究所が「日本人の国民性について」の調査結果を公表していますが、それによると、日本人は、親切、勤勉、礼儀正しいと考えている人が7割を超えているそうです。そうした事と対比すると、「こぶとり爺さん」や「花さか爺さん」に登場するお爺さんやお婆さん、「貧乏神と福の神」に登場する働き者の夫婦の方が、日本人の心象風景には良く合うのではないかと、私には思えます。

なお、池澤氏は、「日本人の心性」といったのは間違いで、「人間の心性」と書くべきだったと反省しています。しかし、「狩猟民の心」の中で問題となっている個所は、「日本民族の典型的な話」という文脈の中で書かれているものなので、「日本人の心性」を「人間の心性」に置き換えてみても、本質は変わらないと私は感じています。(塾頭：吉田 洋一)